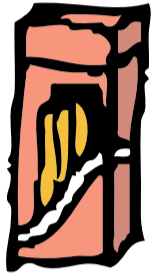
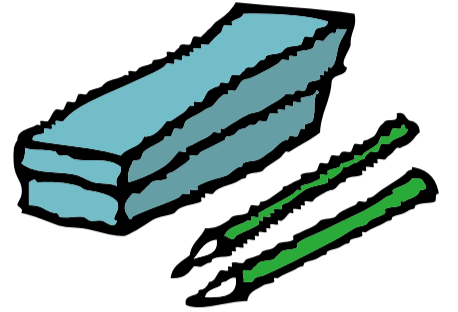


マナブお気に入りのリュック。しましま模様がポイント。よく「昨日焼小籠包の列に並んでたでしょ。うしろからでもマナブだってわかったよ」とほめられる。講座で習った“厳しい自然界で、昆虫や動物たちは身を守るためにしばしば毒をもつ者がある——彼らの奇抜な色や模様は、それを周知させ争いを避ける手段のひとつである”という知識を意識して選んだ。「あえてコバで言う必要がある？ “実はボクはあぶないヤツだ!” ってことを、さ。」(マナブ談) マニヤミンが「走ってまたかばんの中身が落ちた」と言うたびに「リュックにしなよ」とアドバイスしている。

おさいふ。お父さんが使っていた革の長財布をもらった。最近ますます良い味がでてきた。おこづかい帳をつけているので、レシートを折らずにしまえるところが気に入っている。お父さんに「スマートに使うのがかっこいいぞ」とアドバイスされたので、レシートをためこまないよう努力している。

ふでばこ。講座に通い始めた頃、ふでばこを買おうかと思っていたところ、家にあったこれを見つけ、家族に聞いたら全員誰のかわからないと言ったので、もらった。お気に入りの文房具は「魔法エンピツ」。一見ふつうのえんぴつだが、これを使って作文などを書くと、スラスラ書ける気がするので大切にしている。



町田の観光ガイドブック。町田の名産品を食べ歩きながら、いろんなところをみてまわるのが趣味なので、次はどこに行こうかとこの本をペラペラめくるだけで楽しい。いつか自分で「町田の歩き方」を出すのが夢。

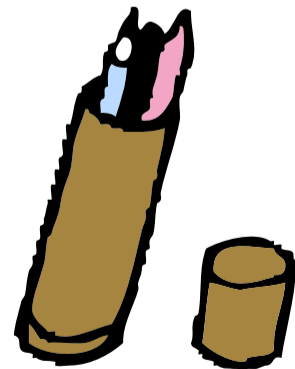
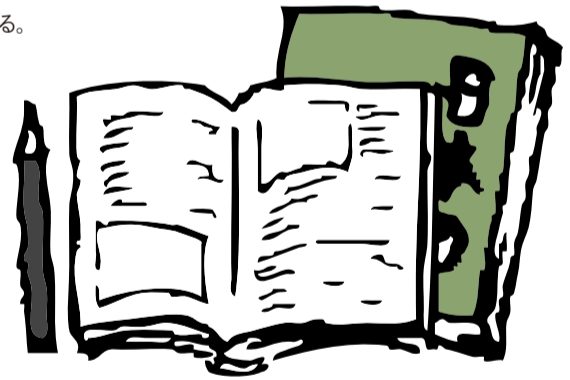
おやつ。脳の活発な働きに糖分は欠かせない。生涯学習センターの休憩コーナーでお茶を飲むときにサッと取り出し、マニヤミンにわけたりする。そのときの、お互いがニヤっとする瞬間がたまらない。お気に入りのお菓子はつぶつぶじゃないほうのいちご味スナック。



ゆったりとしたななめがけタイプ。マチがあるので見た目よりたっぷり入る。よく走っているときに中のものを落とす。落とすたびに自分でチャックを縫いつけたい衝動に駆られるが、お裁縫が苦手なので躊躇している。

おさいふ。おでかけの際に欠かせない。紫色の和柄のかわいがま口財布である。閉じるときのぱくんという音がなんともいえず好き。しばしば「マニヤミンって意外と女の子っぽい小物使うだね」と言われ、そんな時は頬を赤らめて「えへへ」とはにかむが、実は講座で習った“——わたしたちは色にヒエラルキーを感じることもある……それを利用した例が冠位十二階である”という知識をもとに、最も高貴であるとされたという理由で紫色を選んでいる。

市民講座で使うテキスト。カフェで勉強をしている人達に憧れて「喫茶王子」でテキストを広げてみたこともあったが、甲冑の視線が気になって集中できなかった。「わたし…見たんです。本当に見たんです。甲冑の中の目が光るのを……植物がすごいから、みんな気が付かないだけなんだわ!」(マニヤミン談)



レターセット。いつ、誰にでも、思い立ったときにすぐお手紙が書けるように切手も一緒に持ち歩いている。よく手紙を出す相手は女子高生のマチルダ。多感な年頃の女子同士として、恋の悩みからカラダの心配事、将来の進路まで、普段マナブには相談できないことを赤裸々に綴っている。でもたまに、市民講座で得たばかりの情報をひけらかす内容のときは、マチルダから「けむたい」と思われている。

ふでばこ。元々は「みるねの目印」で買った色鉛筆が入っていた紙筒を、ふでばことして使っている。好きなペンは4色ボールペン。以前、細かい字でびっしり予定の入った手帳に憧れて0.3ミリのボールペンを使ったこともあったが、筆圧が強すぎてステンレスのペン先がぐにやりと曲がってしまった。以来、どんなに力を入れても壊れないボールペンを愛している。